北越産業株式会社

代表取締役　渡邊秀照

本社:〒950-0863
新潟市東区卸新町3丁目16番地19
TEL(025)270-2500 FAX(025)270-2501

中小企業だより

新潟大学
張ゼミ演習
執筆者/新潟大学
酒井政宜
本間俊

事業に多様性が見える企業

会社概要

新潟市東区の卸地に社を構える北越産業株式会社は、土木建設における工事の請負や資材の販売、什器備品等の販売、農業用資材の製造および販売を主に行う中小企業である。建築の様々な分野において精通した技術を持っている。近年では、多角化を進め、チンゲン菜やほうれん草の野菜販売、椿油やえごま油の商品も作っているという。十六人という従業員数に対して、実に幅広い事業範囲をもっている。

自社の事業を活かした特徴的な本社

一番上の写真の青い建物が北越産業の本社である。見てわかる通り街中ではかなり珍しい円筒状の建物である。こちらは平成八年に本社を新潟市石山から現在の卸新町に移転した際に建築したという。自社事業が建築に関わるものが多いということもあり、そのほうとんどが自ら建築したそうだ。特に、外からでも見てわかるのは、白い特殊な素材の屋根や、入口のトラスは自社で扱っている製品だという。三階建て＋屋根裏部屋で、曲がった壁に四角い作業デスクがフィットしないという難点はあったそうだが、各フロアには扉が基本無くて、ぐるっと一周できる、社内での連携がとりやすそうな非常に面白い構造だと感じた。

幅広い事業を支える卸団地と社名

建設分野が中心とはいえども、食品等、これまで様々な分野に手を伸ばし多様化を進めてきたのは、理由があるようだ。

その一つが、この企業が属している卸新町の卸団地にある。この卸団地の特徴は全体で扱う品目、その市場に多様性があるということだ。よって、この卸団地に属する企業は、お互いに多様な業界の情報を共有することが可能になる。

二つ目は社名のこだわりにある。北越産業株式会社の設立の際、当時の初代社長が、「事業を拡大するときに建設業だけにとどまらず幅広く考えていけるようにしたい」という考えから、社名を「建設」とはせず、北越『産業』としたのだという。渡邊社長は、「この名前のおかげで自社経営に関して柔軟な間和え方ができる。もし北越建設だったら場合には建設業だけに注力し、会社が細くなっていたかもわからない。」とおっしゃっていた。

今後も北越産業の幅広い活躍に今後も期待が高まる。

編集後記

今回の取材は主に事業承継と多様性をキーワードに行った。事業承継については中小企業によくある親族内承継とは違う社内承継についても聞くことができたのは良い機会となった。親族内承継と親族外承継はどちらも一長一短という渡邊社長の考え方もあり、会社ごとの考え方などに沿った多様性については、私たちは中小企業にとって必要不可欠なものだと思っていた。しかしながら、私たちの取材した北越産業さんだけでなく、多様性というものに対してそれほど必要性を感じていない企業さんたちが多かったのが事実だった。中にはこれからの時代に合わせて必要だと考えてる企業さんもあった。それは業種によるものや、社長の意向などの要因があった。それを発見できたことだけでも今回の取材にはとても意義があったように感じた。

新型コロナウイルスの影響は

新型コロナウイルスの流行で業務に支障が出たり、変革を余儀なくされた企業は多い。北越産業さんはどうだろうか。社長の話によると、経営が逼迫するような事態にはならなかったそうだ。しかしながら県外との連携が全く取れず、今年1月にも関西へ営業をかけたかったが断念したそうだ。やはり、少なからず影響は受けている。コロナウイルスの流行でテレワークやフレックスタイム制などが注目され、取り入れた企業も多い。しかしながら、北越産業さんはそのような仕組みは導入していないそうだ。

北越産業さんの仕事はあくまで施工管理業。現場を抱えているため、どうしても現地へ人が出向く必要がある。そのためなかなかそのような仕組みを取り入れるのは難しい。エンジャパンの調査をみると、やはり建設業ではそのような取り組みをした企業は表上に少ない結果であった。北越産業さんのような理由があるのだろう。さらに北越産業さんの社長はこうおっしゃった。「私は仕事を共にする人とは実際に会って、その人の人間性を確かめたい。」時代が変わっても大切なことはしっかり守り抜く姿勢だ。